

会議名	第7回 自動認識総合展
開催日時	平成17年9月16日(日)10:00～12:00
開催場所	東京ビックサイト 東2・3ホール
主催者	社 日本自動認識システム協会 (JAISA)
参加人数	
会議の概要	<p>社 日本自動認識システム協会が主催する標記のエキスポは、9月14～16日に207社、6団体、592小間の参加により開催。バーコード、2次元シンボル、RFID(データキャリアシステム。カード状またはタグ状の媒体に、電波を用いてデータの記録、または呼び出しを行い、アンテナを介して通信を行う認識装置)、バイオメトリクス(生体認識)、カード、システムなど今日の自動認識技術・システムの分野を網羅し、「HUMAN & AUTO_ID - 効率・安全・信頼 自動認識技術」をテーマに、ユビキタスコンピューティング時代におけるトレーサビリティや物流・流通、SCM、医療支援、セキュリティなどに必要不可欠な自動認識技術の機器・製品・サプライ応用品、応用システムを一堂に集めた総合展であった。(別添資料参照)</p> <p>会場の出展内容から、自動認識市場拡大研究開発の戦略目標がバーコードシステムからRFID、バイオメトリクスに移行していると感じさせられた。</p> <p>当協会の事業に関連する家畜のRFIDによるトレーサビリティについて出展していたのは大日本印刷(株)であったが、同社のICタグ技術応用の豚肉トレーサビリティシステムとして紹介されている「畜産トレーサビリティ」は、農産、水産、輸入食材、加工食品、乳飲料・乳製品、精米などの各トレーサビリティとともに、同社のトレーサビリティソリューションの一環をなすのもであった。</p> <p>(別添資料参照)</p>
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表	
3. その他の発表課題で関心のあったもの	<p>会場内でJAISA(日本自動認識システム協会)のRFID部会の活動の現状についてのセミナーを聴いた(別添資料参照)。</p> <p>JAISAは民間会社等百数十社を会員とする社団法人で、事務局、研究開発センター、ISO対応の標準化委員会のほかRFID部会のほか4部会で構成されている。JAISAの活動は加盟各社の技術者により行われ、RFID部会は現在約百社が参加して周波数割り当て、廃棄物問題、RFID機器と医用機器との共存などの問題に取り組んでいる。</p> <p>RFID部会の構成を見ると、会員企業の中に畜産関連事業に関わっている企業は1,2社しか見当たらない。当協会の畜産用電子機器研究組合事業を推進するためには、JAISAとの連携を深める方策が必要と思われる。</p>

4. 今後研究 開発課題採択 に当たって参 考とすべき事項 等	この分野関連課題の採択にあたっては、申請課題の世界における自動認識 技術開発の中での位置付けに十分留意する必要があると思われる。
5. 報告者	針生 程吉